

創立 70 周年記念式典 来賓祝辞

愛知県議会 議長 須崎 かん 様

愛知用水土地改良区創立 70 周年記念式典が、このように盛大に開催されますことを県議会を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げます。ご参会の皆様方におかれましては、土地改良事業の推進を通じ、農業経営の発展、農業生産力の向上に格別のご尽力を賜っており、深く感謝を申し上げる次第であります。

また、先ほど表彰を受けられました皆様方には、長年にわたる愛知用水へのご功績が広く認められたものであり、ここに深く敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて愛知用水は、昭和 36 年の通水以来休むことなく水を供給し続け、農業は元より生活や産業を支える水の大動脈として地域の発展に大きく貢献してまいりました。今後も私たちは限りある水資源の安定的効率的な活用に努め、先人たちが築き上げた愛知用水をしっかりとしり守り次の世代に引き継がなければなりません。

私ども県議会といたしましても、愛知用水が今後とも安定した水の供給を続けることができるよう全力を挙げて、支援をしてまいる所存でございます。皆様方には、用水施設の適切な維持管理と円滑な事業運営により一層のお力添えを賜りますよう、お願いを申し上げます。

最後に、愛知用水土地改良区の今後益々のご発展と本日ご参会の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、私の挨拶をさせていただきます。

本日はおめでとうございました、

衆議院議員 鈴木 淳司 様

愛知用水土地改良区創立 70 周年記念式典の開催おめでとうございます。また、先ほど表彰を受けられた方々につきましても本当におめでとうございます。

さて、本日の趣旨はもうすでに久野理事長の話の通りでありまして、本当に先人に感謝をし、今後の発展に期待していく。そういう日でありましようけれども、私が今日ここに来るまでに改めて歴史を紐解いてまいりました。久野庄太郎さん、浜島辰雄さん、伊藤佐さんをはじめ、多くの方々の大変なご尽力で今日がございます。

私は、愛知 7 区の選出の議員でありますので、瀬戸、尾張旭、長久手、日進、東郷、豊明が地域であります。日に 2 往復をするのが当たり前なぐらい、瀬戸から大府まで通っております。開口部が特徴のこの愛知用水をよく道沿いで見ており、今でこそ当たり前に思いますけれども、愛知用水が出来るまでにどんな苦労があったか。また、愛知用水のおかげで、地域の農業、工業、生活、全てが潤っていることを改めて深く感謝をする次第でございます。

こうした水に対する思い、地域に対する思い、この決実がこの愛知用水でありますけれども、こうした思いをしっかりと我々も受け継ぎながら、同時に今後も発展させていきたいと思う次第でございます。今日は、このすべての関係者一同が会する式典の中で、多くの

方々にお目にかかれ本当に光栄に思いますが、これからも益々ご発展されますように、心から祈念をしご挨拶申し上げます。おめでとうございます。

衆議院議員 伊藤 忠彦 様

本日は愛知用水土地改良区創立 70 周年記念の式典におきましては、これまで以上に頑張ろうという思いを持って、今日ここに参加をされている皆様方、70 年という長きにわたって、歴史を刻み込んでこられた皆様方にまず一言お祝いを申し上げておきたいと存じます。本当におめでとうございます

さて、私は愛知 8 区、東海市から知多半島全域、南知多町は日間賀島、篠島まで選挙区となっております。その知多市の久野庄太郎さんをはじめとする皆さま方が、戦後間もなく、自分たちの食べるものをぜひ水を引いて農業をやりたい。この思い一筋で時の総理である吉田茂さんに陳情に行かれました。吉田さんが理解をし、これは大事な事業であるため、国のお金を使って用水を引こうじゃないか。そして、始まったのがこの愛知用水の事業だったと改めて本当に感謝の気持ちでいっぱいであります。

今、私達の知多半島にあっては、日間賀島、篠島、佐久島にまで管が通り、農業ができるようしっかりと整えられております。今、私達が一番皆様方を後押しさせていただかなければならないことは、農家収入をしっかりと上げていただけるような、そんな農業をこの用水を使ってやり続けていただける、これが今一番私達に求められていることではないかと思っております。

今まさに、国会が開かれております。今日も予算委員会が開催をされており、私もここを終えたら直ちに戻らせていただき、私が担当しております委員会の運営について皆さんと協議をし、明日以降しっかりと進めてまいります。

知多半島にこの愛知用水の恵みを受けていただく大勢の皆様方、これからも、この恵みを受け続けることができるよう、我々はしっかりと目配しをさせていただきながら、皆様のご健勝ご活躍、そして先ほど申し上げた通り、知多半島の農業をしっかりと下支えをさせていただくことを改めてお誓いを申し上げご挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

衆議院議員 八木 哲也 様

私は愛知 11 区、豊田、三好から出させていただいております。愛知用水土地改良区創立 70 周年ということで、人生で言うならば古希のお祝いでございます。その大きな節目に感謝状を受けられました皆様方につきましては、これからも土地改良区のお仕事に喜寿、傘寿、卒寿と末長くご尽力賜ること。また、この用水が発展していくことを心からお願い申し上げたいと思っております。

先ほど申し上げましたように、私の選挙区は豊田でございます。明治用水の頭首工でございます。いつも満々として、水が流れていると思いきや、5 月 18 日を境に一瞬にし

で水がなくなり、農業の皆さん、工業の皆さん大変な苦勞をいたしました。

当たり前であると思ったことが、あの頭首工の水抜けによって覆されることとなり、常に当たり前ということはありませんといった教訓となったと思います。

人間の子供の体内には 75%の水がございいます。そして、成人した時には約 60%が水でできています。そういうことを思いますと、当然のことながら、作物を作るにおいても、水というものがいかに大事なのか。そして、人間の場合約 20%前後がなくなれば、死んでしまいます。作物も然りだと思ひます。常に水を大切にひして、この愛知用水土地改良区が益々ご発展されることを心からお祈り申し上げまして、ご挨拶をさせていただきます。本日はおめでとうございました。

衆議院議員 石井 拓 様

愛知用水土地改良区創立 70 周年記念誠にひめでとうございます。このような形で、この席にお招きいただきまして、公栄に思ひっております。

私自身の選挙区は 13 選挙区と言ひまして、刈谷市、知立市、安城市、高浜市、碧南市になります、刈谷市で愛知用水を頂戴しております。

私は小学校の時に授業の中で愛知用水が非常に苦勞して作られ、農業、そして工業の愛知県の発展に役立ってきたと勉強した覚えがございいます。その中で、愛知用水土地改良区が創立 70 周年を迎えられるということで、大変喜ばしく思ひっておりますし、この地域の発展のために益々発展していただきたいと思ひっております。

そして、本日感謝状を授与された皆様におかれましては、本当にひめでとうございます。ぜひとも、若い世代である 30 代、40 代、50 代、60 代の皆さんにしっかりとご指導いただき、この愛知用水土地改良区が 80 周年、90 周年そして 100 周年まで続きますことを心からお祈り申し上げて、お祝ひのご挨拶とさせていただきます。

本日はひめでとうございます。

参議院議員 宮崎 雅夫 様

本日は愛知用水土地改良区創立 70 周年誠にひめでとうございます。また、先ほど栄えある表彰を受けられました皆様方につきましては、お喜びを申し上げます、本当にひめでとうございました。

今日は東京から東海道新幹線で、こちら参ったわけがございいます、この愛知用水と東海道新幹線、どちらも戦後世界銀行の融資を受けた戦後を代表する国家プロジェクトの 1 つであるわけがございいます。まさしく、土地改良を代表する大事業だったわけがありません。

先人の皆さん、先輩の皆さん、久野理事長をはじめとする土地改良区の皆様、関係の皆様のごこれまでのご尽力に私も土地改良の代表として国政で活動している者として、また、1 人の灌漑技術者としても、敬意を表させていただきますと思ひます。

今、我が国の食糧安全保障、この強化が大変大きな課題になっておるわけでございます。これからもこの地域の農業、そして我が国の食糧安全保障のためにも大切な用水を次の世代に引き継いでいく。これが我々の大きな責務でもあるわけでございます。私も今日お越しの地元の衆議院の先生方にご指導いただきながら、しっかりと皆様方とともに国政で頑張っていくことをお誓い申し上げたいと思います。

結びに、愛知用水、そして愛知用水土地改良区の益々のご発展、そして本日ご参集の皆様方のご活躍ご健勝をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます、

東海農政局長 小林 勝利 様

本日ここに愛知用水土地改良区創立 70 周年記念式典が盛大に開催されるにあたり一言お祝いを申し上げたいと思います。創立 70 周年誠にありがとうございます。そして、先ほどで表彰されました皆様方、誠にありがとうございます。

土地改良区は愛知用水の推進母体として、事業の実現に御尽力をなされました。そして愛知用水完成後は 60 年以上にわたりまして、約 1000 キロにもおよぶ用水路の維持管理を担っておられました。先日上流の兼山取水口から南知多町まで関連の用水施設をまる 1 日かけて見てまいりました。この広範な土地に渡ります土地改良施設をしっかりと維持管理なされており、膨大な農業地帯の発展に貢献なされているということを痛感いたしました。関係の皆様方のご尽力に深く敬意を表したいと思います。

そしてまた、土地改良事業の推進に留まらず、水源涵養林なども造成なされております。そういった地域の枠を超えたご活動にも敬意を表したいと思っております。

愛知用水は水資源機構様により昭和 36 年に完成いたしました。それ以降は愛知用水の二期事業や現在実施中の愛知用水三好支線関係の緊急対策事業を実施なされております。我々農政局といたしましても水資源機構様と連携を取りながら。予算の確保、事業の推進等に邁進してまいります。

結びに、愛知用水土地改良区が今後も益々ご発展なされること。そして、本日ご隣席の皆様方の益々のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして私からのお祝いの言葉といたします。

本日は誠にありがとうございます

独立行政法人水資源機構 副理事長 日置 秀彦 様

本日は愛知用水土地改良区創立 70 周年記念式典の開催誠にありがとうございます。平素より機構事業の管理運営につきまして、久野理事長をはじめとする土地改良区の皆様、さらには、本日ご出席の関係者の皆様には深くご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年水資源機構の前身となります水資源開発公団が昭和 37 年の創立から 60 周年を迎えております。それよりさらに前の時代に愛知用水は、木曾川の水を知多半島へというキ

ヤッチフレーズのもと干ばつに苦しむ地元農民から建設運動が立ち上がり、昭和 30 年愛知用水行団が設立され、昭和 32 年に牧尾ダム、三好池の工事に着手いたしました。

その後、わずか 4 年後の昭和 36 年に完工となりました愛知用水は、昨年 9 月 30 日に通水 60 周年を迎えました。この間、知多地域の農業生産としての役割及び中部経済圏の工業発展や生活を支える大動脈として、地域農業や経済の発展のため 24 時間休むことなく水を送り続けております。現在では知多半島を中心に約 1 万 5,000 ヘクタールの田畑に農業用水。約 90 万人に水道用水。さらに 100 を超える事業所に工業用水を供給しており、愛知用水の安定した通水と本地域の発展は愛知用水土地改良区の皆様の日頃の管理とご支援の賜物と考えております。

さらに、土地改良区の皆様は水源地域対策に積極的に取り組んでこられ、昭和 42 年から水源涵養林育成事業。平成 21 年から愛知用水と水源の森のイベント等、常に受益の立場から水源を大切にす視点をもち続けてこられ、水源での施設を管理する我々の立場としても、深く感謝の念を抱く次第でございます。

さて、先ほど申し上げましたように愛知用水は通水開始から 60 年、さらには愛知用水二事業の完成から 16 年が経過しましたが、二期事業で造成した施設の中には、老朽化の傾向が見られるもの。さらには南海トラフ地震等への対応、気候変動等も見据えた牧尾ダムでの各対策等の必要性も高まってきております。一昨年からは、農林水産省の国費による調査制度も創設され、それらの対策について鋭意検討を進めているところでございます。

我々施設を管理する水資源機構としましては、愛知用水の大切な役割を確実に次世代に引き継ぐべくこれらの対策について速やかに検討を進め、関係の皆様にご説明をして参りたいと考えております。土地改良区の皆様には引き続き、ご理解、ご支援を賜りたいと思っております。

最後になりますが、愛知用水土地改良区の益々のご発展と、本日までご出席の皆様のご健勝をご祈念申し上げ私からの挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

全国土地改良事業団体連合会 会長 二階 俊博 様
(代理 専務理事 室本 隆司 様)

愛知用水土地改良区が本日創立 70 周年記念式典を迎えられましたことに心からお喜びを申し上げます。また、只今多年に渡るご功績により感謝状を授与されました皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

愛知用水土地改良区は設立以来知多半島で暮らす人々の大動脈である愛知用水を適切に管理し、「地域とともに歩む」をスローガンとして農業、そして地域の発展に多大な貢献を果たしてこられました。愛知用水はまさに農民の熱意が結実したものであります。

森田萬右衛門氏が、知多半島の水不足を救うための木曾川からの導水という夢の構想を

提唱し、やがてその熱意は久野庄太郎氏、浜島辰雄氏ら地域の人々に引き継がれ、その関係者の熱意が吉田茂首相の心を動かし昭和 36 年夢の用水が実現したのであります。「愛知用水単に水を流すだけの用水であってはならない、水と一緒に新しい文化を流さなければならない」。用水運動開始当時にまとめられた「愛知用水の趣旨と理想」には、当時の人々の志が高く掲げられています、それは愛知用水土地改良区の活動理念として今も脈々と受け継がれております。

「この木曾の水は百年の夢をうつつに 愛知用水として濃尾の野をうるほす ゆくてに幸多かれ」。愛知用水公団初代総裁である濱口雄彦氏が記した竣工記念碑は兼山取水口を見下ろす小高い丘に建立され、今も行く手に幸を多かれと愛知用水を見守っています。

今ここに創立 70 周年を迎えられ、重ねて心からお喜びを申し上げますとともに、愛知用水土地改良区の皆様、そして、本日ご参会の皆様のなご活躍とご健勝を祈念申し上げます私の祝辞といたします